

校宝

真庭市立久世中学校 学校便りNo.13

令和3年3月12日 文責 学校長 児島 みどり

校訓 『至誠』 ～自主・親和・努力～



未来へはばたけ! 115名の卒業生たち

令和2年度卒業式校長式辞より。

・・・百十五名の皆さん、卒業おめでとうございます。今、お渡した卒業証書についてお話しします。《中略》

・・・皆さんは、この三年間多くの人たちと出会い、互いに励まし合い、悲しみに耐え、喜びに心を躍らせながら、大きく成長していきました。特にこの一年間は新型コロナウイルス感染症拡大によって世界中が大きな困難に直面し、皆さんにとっても試験の年となりました。楽しみにしていた沖縄への修学旅行は中止となり、運動会や文化発表会は縮小して行われました。何より部活動の大会やコンクールが中止となったことで、目標を見失い、行き場のない怒りや悔しさに気力を奪われ、投げやりになった日々もあったことでしょう。しかし、皆さんはそこから立ち上がり、たくましく前へと進みました。

時間を短縮し、密を避けながら行った運動会では、競技にソーランにダンスにと全力で取り組み、それまで圧縮されていたエネルギーを一気に爆発させました。想いの強さが溢れ、見る者全てに感動を与える素晴らしい演技でした。文化発表会では、より質の高い作品やパフォーマンスを披露し、楽しませてくれました。日々の充実した活動の様子を感じることができました。修学旅行の代替として行った蒜山への校外学習では、雄大な自然の中で仲間との絆を深め、郷土の魅力を再発見し、たくさんの思い出を作りました。3年生最後の大会やコンクール、発表会の中止が決まった時には、失意の中、「部活動の本当の目的は何か」をミーティングで話し合い、自分たちの最終の目標を確認し合いました。「仲間との絆を深め、努力することの意義を知り、人間として成長することこそ部活動の意味がある。自分たちが今までしてきたことに誇りを持ち、後輩に繋いでいこう。」と、切り替え、引退するその日まで全力でやりきりました。皆さんの引退した後、秋の大会では後輩たちが素晴らしい結果を残しましたが、その躍進をもたらしたのは、皆さんとともに取り組んだ日々であったことは間違いありません。

皆さんはまた、久世中学校に新しい風を吹かせてくれました。生徒会を中心に、長年声が出ながらも積み残しになっていた校則の見直しを図り、実現させました。本校生徒への意識調査、他の中学、高校へのアンケート調査、先生方との協議など、時間をかけて一つ一つ丁寧に課題をクリアし、ついにやり遂げ、伝統ある久世中学校の歴史に輝かしい1ページを記しました。皆さんが残した数々の実績と自主の精神は、在

校生にしっかりと受け継がれていくことでしょう。そして、これからの皆さんの人生の中で大きな財産になるはずです。

新型コロナウイルス感染症は、多くの人の命を脅かし、経済に大きな打撃を与えました。世界中にもたらした悲しみや苦しみ、怒りや無力感は計り知れません。しかし、同時に「当たり前な生活がどんなに貴重なものであったのか」を知り、「本当に大切なものは何か」を考えるきっかけともなりました。また、地球規模のグローバルな視点で物事をとらえていく重要性も感じました。今、まさに人類の英知をかけ、収束に当たっていますが、まだまだ先は見えず、何が正解か未だにわかりません。しかし、皆さんにはどんな世の中であろうと、自分らしく生き生きと人生を謳歌し、幸せを感じられる人でいてほしいと心から願います。第44代のアメリカ大統領バラク・オバマ氏は皆さんの世代に向けてこう言っています。「これまで以上にチャンスがあり、世界を創ることのできる世代はない。」そう、まさにこれからは皆さんの出番です。答えがない今だからこそ自分の頭で考え、行動し、将来社会の担い手として日本を、世界を支えていってください。また、皆さんの中には、ここふるさと真庭の豊かな自然を守り、歴史と文化を継承し、持続可能な未来都市へと発展させるために活躍する人がいると期待しています。《中略》

さあ、卒業生の皆さん、新しい世界に向かい、胸を張って飛び立ってください。皆さんの前途に幸多かれと祈り、式辞といたします。



卒業式までの日々・・・



← ☆入試1週間前の3月2日、3年生の入試直前テストが行われました。すでに合格が内定している人もいますが、全員が真剣に取り組んでいました。最後まで心は一つ。これから最後の勝負に向かう仲間を気遣い、一緒に闘おうとする思いが伝わってきました。

☆3月5日、「人権の木」について生徒、教職員の決意やメッセージが書かれた花が生徒会役員のアイデアで天井から吊るされることとなりました。まるで枝垂桜のごとく玄関が華やかに彩られ、3年生の門出をお祝いしているようです。今後、市役所にも設置し、取組を広げていく予定です。 →



← ☆3月10日、県立一般入試の2日目。既に高校が内定している生徒たちが午後から集まり、3年生の使用した教室や廊下、トイレなどの清掃活動を行いました。ボランティアによるものでしたが、各クラス本当に多くの生徒が参加してくれたことに感謝しています。仲間と語らいながら思い出のたくさん詰まった場所を心を込めて磨き上げてくれました。今、この時に受験に向かっている仲間の検討を祈りながら・・・

3年生 部活動栄光の証 令和2年度 優秀選手

岡山県中学校体育連盟優秀選手

○陸上競技 中村 香葉 ○バレーボール 柴田 結衣 ○スキー 岡田 和磨

美作地区中学校体育連盟優秀選手

バドミントン 築山 怜央
 バスケットボール 田中 琉己 森田 岳人
 野球 山田 陽太
 卓球 長尾 大樹
 バレーボール 柴田 結衣 田中 菜穂
 剣道 長尾 暁 景守 風花
 陸上競技 中村 香葉
 スキー 岡田 和磨



卒業式予行で表彰

真庭支部中学校体育連盟優秀選手

バスケットボール 赤本 琉碧 汀 修太郎 奥 ののか 谷田 藍胡
 バドミントン 築山 怜央 清水 春陽 坂根 蒼馬
 バレーボール 柴田 結衣
 ソフトテニス 二宗 真央 上田 莉央 杉山 紫帆 池田 瑞梨
 サッカー 大饗 東輝
 卓球 松田 真衣
 剣道 景守 風花 池田 真翔
 野球 高岡 春弥 福井 湊斗
 相撲 岡田 和磨



3年生 保護者の皆様へ



3年団教員

お子様のご卒業おめでとうございます。
 大切なお子様を三年間お預かりする中で、ご心配をおかけしたこともあったかと思いますが、最後まで本校の教育活動にご理解とご協力、そして、温かいお声をいただき感謝申し上げます。今年度は、新型コロナウイルスにより多くの制限のかかる中での教育活動となりました。私たち教職員は、「最後の中学校生活を思い切り謳歌させてあげたい」と願い、この一年、「どうすれば生徒たちが充実感や達成感を味わい、成長へとつながるのか」を常に模索し続けてきました。先の見えない日々は何が正解かわからず、迷うばかりでした。「とにかく、その日その日を精一杯生徒と向き合おう」と心に決め、今日まで夢中で取り組んできました。そんな中で生徒たちは、私たちが思っている以上に柔軟でたくましく、今を受け止めてしっかりと前に向かって進み続けました。その姿に私たちの方が救われることも多かったです。素晴らしい生徒、保護者に恵まれたことを誇りに思い、心から感謝しています。久世中学校での日々が生徒たちにとっていつまでも心の故郷であることを願っています。 久世中学校 職員一同

令和2年度 真庭市立久世中学校 学校評価書を掲載いたします

2月18日、本校に於いて評価委員会を開催し、下記の評価をしていただきました。一年間、本校を見守り、ご指導、ご助言をいただきありがとうございました。

学校関係者評価委員 福井 孝行 福島 啓介 石村 修 福山 眞知子
 A 目標を上回っている B ほぼ目標どおり C 目標を下回っている

評価領域	学校関係者外部評価	評価
授業改善 家庭学習	生徒、保護者、教職員の自己評価が全て上がっており、様々な学力テストでの伸びが見えていることから授業改善が確実に進んでいる様子が窺える。課題であり、重点的に取り組んできた家庭学習の時間も全学年で増加し、それが学力向上につながっていると思われる。保護者や地域に発信することで、理解を得ながら学校としての取組を継続させてもらいたい。	A
生徒指導 部活動指導	生徒指導関係の自己評価は、昨年度、生徒、保護者ともに大きく上がったが、今年度さらに高くなっている。規律を守り、大変落ち着いて生活できている様子が参観時にも見られる。部活動指導は、コロナの影響により制限されたが、様々な工夫により、生徒のモチベーションを下げることなく新たな取組を続け、特に生徒の満足度が高かったことを評価したい。	A
教育相談 不登校対策	不登校対応を大きな課題と捉え、様々な取組をしているが、不登校生徒が増加している実態があり、現状分析や専門家による研修を深めながらさらなる努力が求められる。生徒との人間関係づくりについては、一昨年、昨年と徐々に上がっているが、全体と比較するとやや低い。今後、多角的な視野での取組の継続を期待する。	B
健康教育 家庭生活	スマホ利用については、社会全体の問題でもあり、家庭の協力が不可欠である。学校が発信し、地域組織と一緒に取り組む提案をしてはどうか。子どもたちの健康に関する情報を小学校から確実に伝達できるようなチェック機能が必要である。学校医を含めたスムーズな連携ができる体制づくりが求められる。	B
学校行事 地域連携	本年度は教育活動が制限される中で、行事等工夫して実施していた。運動会や文化発表会、私の主張発表会等、生徒が自主的に取り組み、質の高い内容であった。また、取組の様子を様々な手段で発信しており、保護者、地域への理解が進んでいる。学校公開週間への地域の方の参加が少なく残念だ。工夫が必要である。	A

【総評】本年度、コロナ禍においても5つのプロジェクトを軸に果敢に取り組み続けたことを評価したい。特に学力面については大きな成果を上げており、生徒の自己有用感につながっているのではないかと感じる。何より教職員の生き生きとした姿が印象的である。生徒の自己評価が大変高いが、生徒指導や規律面では意識と実態に差がないか検証する必要もある。不登校やスマホ利用等、学校だけでは限界のある取組については、関係機関や地域との連携がより緊密にできるような体制づくりが求められている。コロナの影響は大変ではあったが、新たな価値観をもたらし、優先すべきことを明確にした。現状を分析し、課題克服に向け、今後も全職員で取り組んでいってほしい。